

天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち

広報

おやまざき



1

2011(平成23)年

息を合わせてヨイシヨイ!

【12月8日 長寿苑餅つき大会にて】

今月の主な内容

- 新年のごあいさつ P 2
- TOP INTERVIEW
江下 傳明 新町長 P 4
- 西国街道・丹波街道でつなぐ
乙訓たてもの探訪 P 8
- 天王山マツ山再生プロジェクト P 9
- 新しい民生児童委員を紹介します P 10
- 秋の叙勲 おめでとうございます P 12

vol.516

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

新年のごあいさつ

「笑顔」と「ふれあい」が

あふれる町づくり

明けましておめでとうございます。
町民の皆さまには、ご家族

そろって健やかに新年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、新しい年が町民の皆さまにとって、素晴らしい年となりますようにお祈り申し上げます。

さて、昨年12月に新町長として大山崎町政を担当することとなった私ですが、かつて戦国時代に日本の歴史を変えた「山崎の合戦」が繰り広げられたこの天王山のふもとに広がる町で、今度は町民の皆さまとともに私たちの手で新しい町づくりを始めたいと考えています。

そして、戦国時代から400年以上経過した現在は、デ

ジタル化の時代でもありません。今年の7月にはアナログテレビ放送が終了し、これからは本格的なデジタル放送の時代になります。

私が町長として執務を始めることとなった大山崎町役場庁舎の中にも、コンピュータに代表される情報機器があふれています。膨大な情報が行き交う現代社会において、情報を整理し、物事を効率よく進めるため、デジタル化は当然の流れであり必要不可欠なことであるといえます。

しかしその反面、人と人とのふれあいは薄れ、「イエス」「ノー」だけで終わってしまうような、温かみのない社会になってきたように感じます。そんな中、町民の皆さま

の暮らしを支える役場は、デジタル化されていない「笑顔」と「心」を持った職員がフェイス・トゥ・フェイスで来庁者に接することで、皆さまに心地よく感じていただける温もりのある場所でありたいと思っています。

そうした意味で、今年は役場に来庁される皆さまに対して、職員が大きな声で元気よくあいさつをし、この大山崎町全体が、「笑顔」と「ふれあい」のあふれる町でありたいと思っています。

どうか、この一年が皆さまにとって、幸せな笑顔があふれる年になりますようお願い申し上げます。私の新年のごあいさつにかえさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成23年の年頭にあたり、大山崎町議会を代表いたしまして、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

皆さま方には、日頃から町議会に対するご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

私は、昨年11月の臨時議会におきまして、議長の要職に就任させていただきました。かかるうえは、大山崎町の発展と円滑な議会運営に専心努力してまいりたいと考えています。

昨年は、国政において地域主権戦略大綱に基づく、国庫補助負担金の一括交付金化に

ついでに議論が進められるなど、長年続いてきた国と地方の関係に変化の訪れを感じさせる年でありました。今後は

政策の取捨選択に対する自主性や柔軟性の発揮如何により、大山崎町の将来が左右されるのではないかと考えています。そのような意味からも、議会としてのチェック機能や、政策立案機能の充実がより重要となってきます。本議会では、その目的を達成するため、議会改革特別委員会を設け取り組んでいるところです。

また、非常に厳しい財政状況が続く中、行財政改革推進の一翼を担う議会として、16人であった議員定数を昨年の一般選挙から12人とし、4人

の削減を行いました。議員一人ひとりの能力向上により、最小の人数で最大の効果を得られるよう努めて参ります。

本年は、まちづくりの指針となる第3次総合計画第3期基本計画のスタートの年でもあります。皆さまと行政、そして私たち議員との「協働」により、基本計画にのっとり、まちづくりに取り組めるようまい進してまいりますので、なお一層のご支援とご協力をお願いいたします。

結びにあたり、新しい年が皆さまにとりまして、より実り多き、飛躍の年となりますことを心から祈念いたします。新年のごあいさつといたします。



大山崎町議会 議長

小 泉 興 洋
こ いずみ おき ひろ



大山崎町長

江 下 傳 明
え した でん めい

TOP INTERVIEW

江下 傳明 新町長

え した でん めい

10月17日回に行われた大山崎町長選挙で当選を果たした江下傳明町長。
平成26年12月4日までの4年間、その双肩に大山崎町の未来が委ねられます。
私たちのニューリーダーに、抱負や町政運営の展望など、たっぷりとお話を伺いました。



12月6日回の初登庁式で、町職員から花束を受け取る江下町長

―就任にあたっての抱負をお聞かせください。

「支持してくださった方々の期待を裏切りません。」

選挙では多くの皆さんの支持を受けて当選させていただきました。その方々の支持を裏切らないということが、最初の抱負ですね。それには、皆さんと約束したマニフェストを4年間でどれだけ実行できるか。まず1年目には、水道問題に重点的に取り組んでいきたいですね、選挙の大きな目玉でもありました。

もう一つは住民サービスの改善です。これは行政の最も基本的な部分です。住民ニーズにどうやって応えていけるか、役場職員の姿勢は今のままでいいのかわかりません。いいですね。「ありがとう」が溢れるようにしたいですね。意識改革を進めていきたい

と思っています。

―選挙で掲げられた「乙訓は一つ」「大山崎モデル」「子どもは宝」という3つのマニフェストの、実現へのプランをお聞かせください。

まず「乙訓は一つ」ですが、これは、町単独でできるものは単独で、二市と一緒にできるものは共同でした方が、より行政効率が上がるといえるべきです。水道を例に考えると、小さい自治体では、水道事業維持にかかる固定費の比重が大きくなります。ですから、こういったものは規模を拡大して運営した方が良く考えています。図書館なども同様で、建設費や維持費を考えると町単独では難しいので、長岡京市と一緒に運営費を払って、協力して運営していくという取り組みが必要だと考えています。そのほか、埋蔵文化財の発掘なども乙訓と一緒にやっていけるかもしれません。そういった考えを、これから提案させていただきます。二つ目の「大山崎モデル」

は、高齢化率が25%に迫り4人に1人が高齢者という時代を迎える大山崎町において、高齢者の皆さんの生きがいや活動を、行政がどう援助していけるかという考えを述べたものです。出かけたが、駅まで行くのが大変……。長い距離を歩くのがおっくうで買い物回数が増える……。こういったことから、人と人とのつながりは減っていきまます。そこで、高齢者の皆さんの活力を生み出す一つの手段として、有料のワンコインバスの運行を考えています。大山崎、円明寺、下植野の3地区で、すぐには実現できないかもしれませんが、長岡京市のはつばいバスなども参考にしながら、4年間の任期中に順次実施していきたいです。

―地域の特性を考慮して、住民の皆さんの意見も取り入れていかねばいけませんね。

もちろん、住民の皆さんとの話し合いの中で進めていかなくてはいいけません。ルートとしては、「円明寺」役場「円明寺」および「下植野」阪急新駅」などは考えていかねばならないでしょうね。町内だけでなく、長岡京市にも踏みい

れていく考えがあってもいいと思います。

―大山崎モデルの「モデル」とはどういう意味ですか？

これは一例ですが、コミュニティバスは手を上げたら停車するようにするなど、大山崎独自のモデルをつくっていくという意味です。自宅の玄関前の通りから商店までバスで行けると交通の形があったらどうだろうかと考えています。

「二市との共同、コミュニティバスの運行、ヒブワクチン接種の実施など、掲げたマニフェストを順次実現していきます。」

ることもあると思うので、大山崎のような小さい町では集団接種を検討してみてもいいかもしれません。また、保育については0歳児、1歳児の受け入れが課題であり、新しい保育所をつくることも考えていく必要があります。これは、既設の保育所のような大きなものを新たに建てるというだけではなく、例えば、乳児に限定した定員規模の小さい施設を整備して、現在の保育所の分園とする、ということも考えています。また、保護者からの要望が多い中学校の給食については、選択制のある弁当給食を導入してはどうかと考えています。必要な生徒分の弁当を配達してもらおうというやり方で、要望にも応えていけるのではないのでしょうか。

3番目の「子どもは宝」は、子どもの成育に、行政がどう支援していくかという考えを述べたものです。まず、子どもたちの健康を守るため、ヒブワクチンや子宮けいがんワクチンの導入を進めていきたいと考えています。手法としては、個別接種では受け忘れ

―これまで町議会議員を16年務められたほか、長年民間企業に勤めてこられました。これらの経験を、これからの町政運営にどのように生かしていきたいですか。

民間企業に勤めてきた経験

もう一つは法人税。町民税の中で、法人の占める割合は大きく、町にとって安定的な税収となっています。長引く不況で企業の統廃合が進む中、企業が大山崎町から出て行かないようにする取り組みが必要です。企業に対しては、「大山崎町の工場にどんな投資してください」ということをPRしていく姿勢でなければいけません。あとは、町有財産の有効活用です。遊休地を放置しておくのではなく、町民の皆さんに開放して少しでも収入を得ることを考

「事業の必要性を突き詰めて見直しを行うとともに、企業活動をサポートして法人税の確保に努めます。」

たが、職員の意識改革です。国という事業仕分けを行い、あらゆる事業をすべて見直し、仕分けしていく。いるのか、いらぬのかを突き詰めていく必要があります。

えながら、可能なものは今後、売却も検討していきます。それと、観光の面でももっと可能性はあると思います。大山崎町を訪れる観光客は、ほとんどが日帰り。「アサヒビール大山崎山荘美術館」や「山崎聖天」のような観光ルートをもっとPRしてもいいでしょう。都会の人は、竹やぶの道や天王山の自然の里道を歩くと、ホッとする時間を味わえると思います。整備をして、茶店などを出してもいいかもしれません。

「街づくりの夢をお聞かせください。」

「いつか、山崎聖天の花見を復活させて、観光の面でも町を盛り上げていきたいですね。」

いつか山崎聖天の桜の花見を復活させたいですね。聖天



「ボランティアは生きがいづくりの場。町はボランティア活動を応援していきます。」

から、役場というのは閉ざされた社会のように感じます。まずは、職員の皆さんの意識改革をお願いしたいですね。税金で生活しているという意識を持つ必要があります。また、事業も税金で成り立っているという意識を持ち、あらゆる事業を見直していく必要があると思います。民間企業では、社員は利益を上げるために働いています。いかに原価を下げるか。それも1円、1銭という単位で原価低減の努力をしています。しかし、行政マンというのは、いかに税金を使うかを考えています。そういう発想が根本的に違っています。

いない職員もいます。昔からやってきたやり方を、昔のままの慣例で今も繰り返しているようなことはいいけません。竹林ボランティアとしても活動されていますね。ボランティアは、退職者の生きがいづくりの場になっています。退職者の皆さんの能力を引き出すため、行政には、その後押しをしていくことが求められています。大きな車輪も最初押せば後は勝手に転がっていきます。ボランティアの場合は、最初の取り組みをどう手助けしていくかがポイントだと思います。また、スポーツ団体や文化サークルのコーチや指導者なども、地域の子どもの育成に力を注いでくださるボランティアです。これからは、さらに、こういう方を大切にしたいかないといけません。ボランティアを育てていけば、お金をかけなくてもいい町になっていくと思います。

「厳しい財政状況を乗り切っていくカギは何でしょうか。」

一つは、先ほども言いまし

Rしていきたいと思います。

「最後に、プライベートな質問をさせてください。」

「趣味はありますか。」
読書ですね。2千年前の中国の「莊子」の本を40年間ずっと読んでいます。寝る前に読むのですが、最近はずぐ寝てしまいますね(笑)。
「特技は何ですか。」
鎌や包丁を研ぐこと。あと草刈りが得意です。会社で金属の研磨をテーマとした仕事

をしていたので、研ぐということに興味を持つようになったんです。
「休日はどうのように過ごしていますか。」
散歩したり、竹を切ったり、畑を耕したり。大概は野外で活動しています。自然を相手にするのが好きです。ストロス発散になりますよ。
「家族構成は。」
妻と息子がいます。あと、犬とか猫ではないですが、ペットに川魚のハヤとメダカを飼っています。



12月6日、京都府庁を訪れ、山田知事に就任のあいさつを行いました

西国街道・丹波街道でつなぐ乙訓たてももの探訪

日頃公開されていないものも多いので、この機会に地元の名建築を訪ねてみませんか？

コース

①丹波街道コース…長岡天神大鳥居前～田村家～佐藤家～河合家～富永屋～向日市文化資料館

②西国街道Aコース…神足ふれあい町家(旧石田家)～中小路家～富永屋～六人部家～須田家～向日市文化資料館

③西国街道Bコース…JR長岡京駅～中野家～大山崎町歴史資料館～聴竹居～大山崎山荘(生々居)～アサヒビール大山崎山荘美術館(彩月庵、橡の木茶屋)

※六人部家、須田家、生々居は外部見学

ときⅡ2月19日(土)

①②午前の部(午前9時～正午)午後の部(午後0時30分～3時30分)

③午前10時～午後3時30分

参加費Ⅱ①100円 ②600円

③1,200円

申込期間Ⅱ1月5日(金)～14日(金)(必)

着

申込方法Ⅱ往復はがきに▼氏名▼住所▼電話番号を記入のうえ左記まで。

申込先Ⅱ〒618-0071 大山崎町大山崎竜光3 歴史資料館内

大山崎ふるさとガイドの会

定員Ⅱ各コース、午前・午後の部それぞれ15人

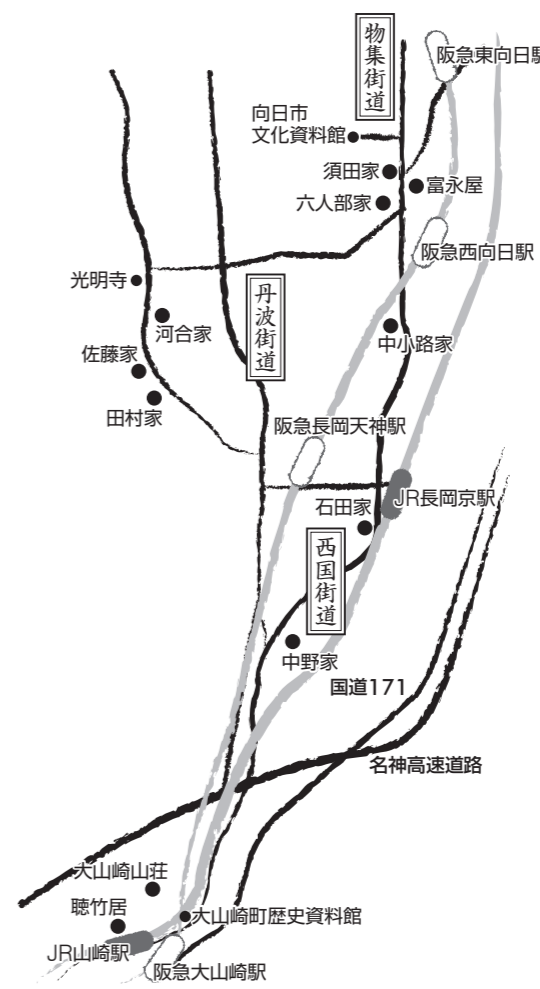
※申込多数の場合は抽選。参加決定者にははがきで通知します

※上記の3コース以外に▼富永屋▼中小路家(以上、向日市)▼旧石田家(長岡京市)▼聴竹居(大山崎町)は、当日午前10時～午後3時に限り個人見学も可。申込不要、見学科別途

問Ⅱ生涯学習課内「乙訓たてももの探訪」担当

☎956-2101(内225)

主催Ⅱ乙訓二市一町教育委員会



①大山崎山荘
②中小路家
③中野家



—みんなの手で、私たちの里山を守ろう—

天王山マツ山再生プロジェクト

一昨年から始まった「天王山マツ山再生プロジェクト」により、天王山のマツ林は随分明るく、風通しも良くなりました。しかし、マツクイ虫の被害で枯れる木も後を絶ちません。

そこで、今年も対象区域を広げ、町の木であるアカマツの林が元気に広がって行くよう、2回シリーズで整備活動を実施します。

マツ山再生のメカニズムの学習と元気なアカマツ林にする作業体験

ときⅡ2月13日(日)

午前9時30分～午後3時30分

ところⅡ宝積寺庫裏、天王山山中

集合ⅡJR山崎駅前有料駐輪場北側

午前9時30分

内容

○マツ山の現状と再生のメカニズム、手入れの仕方についての講習
○支障木の切り透かしや、地表にたまった落ち葉、腐植層の掻き取り作業など

アカマツ林再生の地拵えとアカマツ種子播き、シイタケなどの植菌作業

ときⅡ3月13日(日)

午前9時30分～午後3時

※雨天時は3月20日(日)に延期

ところⅡ天王山山中

集合ⅡJR山崎駅前有料駐輪場北側

午前9時30分

内容

○地拵えとアカマツ種子の直播き
○伐採した支障木へのシイタケ菌などの植えつけ
※植菌した原木の一部は持ち帰り可

(いずれも)

持物Ⅱ弁当▼飲み物▼軍手▼雨具

※作業できる服装でお越しください

※ノコギリ、ヘルメットは事務局で用意

対象Ⅱ乙訓地域近隣に在住または通勤の小学生以上

※小学生は保護者同伴

定員Ⅱ20人程度

※参加無料、申込多数の場合は抽選

主催Ⅱ天王山周辺森林整備推進協議会

共催Ⅱ▼大山崎町▼大山崎町教育委員会▼京都府京都林務事務所▼京都・乙訓緑化推進委員会

協力・後援Ⅱ▼乙訓の自然を守る会▼サントリーホールディングス(株)

申込締切Ⅱ2月8日(金)

申込方法Ⅱ▼住所▼氏名▼年齢▼電話番号▼FAX番号を、電話またはFAXで左記まで。

問・申込先Ⅱ経済環境課

☎956-2101(内225)

☎956-0131